

群 教 セ	G15 - 01
	令 5 . 283 集
	高 - キャリア

令和 5 年度長期社会体験研修報告書

研修先：システム・アルファ株式会社

長期社会体験研修員 引田 頼好

I 研修内容

1 研修先の概要

システム・アルファ株式会社は、昭和 53 年に創業し、県内でもトップクラスの IT 企業である。前橋市大友町に本社を構え、新橋に東京支社、ドコモショップを群馬県内に 3 店舗運営している。IT 事業では、企業の基幹業務システムやネットワーク構築の企画提案、設計・構築、運用・保守などを行っている。自治体、教育委員会、学校関係のインフラ環境整備や運用保守の実績も豊富であり、義務教育課の教育 DX 推進センター運営事業、県立学校に導入される校務支援システム「k i n a k o」の開発・運用・保守など、学校との関わりも多い企業である。ドコモ事業では、ドコモショップの運営の他に、法人営業で各種サービスの提供にも力を入れている。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月】（研修場所：本社 会議室等）

入社後に 3 週間程度行われる研修に参加した。この研修では、社長による講話、各部署の代表による事業や会社の取組紹介、ビジネスマナーの講習などであった。また、研修終盤には班別の研究発表が行われ、調査研究や発表のサポートを行った。企業の段階的に人材を育てていく研修体制、調査研究・課題解決に取り組む姿勢やチームワークを重視していることなどを学ぶことができた。

(2) 群馬県教育 DX 推進センター運営事業【4月～10月】（第 1 ソリューション部）

新規に採用されたアシスタントに対して配属されるまでの研修として、学校現場でよく使用される Google のサービス、エクセルの関数や機能の紹介・説明などを行った。公平かつ効率よく説明するために Google とエクセルのマニュアルを作成した。また、アシスタントが作成したファイルを共有できるポータルサイトの作成、中学校の ICT に関する職員研修の講師を務めた。

(3) 校務支援システム「k i n a k o」開発・運用・保守業務【6月～】（S I ビジネス部）

長期社会体験研修前は、このシステムを使用するユーザ側であったが、システムの開発側として業務を行うことができ、貴重な経験となった。OS は Windows ではなく初めて Linux を使用するなど、一つのシステム開発には多くのプログラムやプラットフォームを使用し、開発の苦勞、高い専門的知識、技術を知ることができた。

(4) 営業支援 【7月～】（第 1 ソリューション部）

県内の高校・大学・自治体への挨拶回り、パソコン・サーバ・プリンタなどの入替え業務や技術者としてのセッティング作業など、様々な営業支援を行った。営業職の顧客に対するきめ細かい気配り、売上げよりも顧客を第一にする営業職としての姿勢や、一方的に伝えるだけではなく相手を尊重し耳を傾ける傾聴力、顧客の質問に対して的確に分かりやすく説明する高く広い専門的知識などを間近で感じる事ができた。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育について

SE やプログラマなどの技術者に必要とされる資質・能力は、非常に高い専門的知識・技術であり、それを間近で見ることができた。生徒が学んでいる情報系の科目は、その基礎・基本となっている。授業では、実務的な内容も入れていく必要がある。営業職の方々から学んだコミュニケーション・スキルに関しては、どの職種を目指す生徒にも還元できるものであった。

(2) 実践の概要

実践の概要（県立前橋商業高等学校）

授業実践

題材名 「キャリア教育とコミュニケーション」（特別活動）

対象 商業科第1学年 40名

学校では、キャリア教育における基礎的・汎用的能力のコミュニケーション・スキルの育成に力を入れている。その学びが実社会でどのように結びついているのか理解できるようにしたいと思い、テーマを設定した。

授業展開では、コミュニケーション能力の重要性を理解し、コミュニケーションとは何かを改めて具体的に考える。そして、生徒が授業を受けて終わりにせず、今度の行動に結びつくように目標を立てさせ、発表することで自分への宣言にした。また、生徒が主体的に活動するように、グループ学習において班内で役割を与えずワークシートも格子状の罫線を薄く引いただけの物を用意し、一人一人が考え工夫できるようにした。

II 研修成果

1 コミュニケーションの重要性について

積極的に社員とコミュニケーションを図り、多くの業務に携わる機会を通して、専門的知識・技術など多くのことを吸収することができた。高校生が考える日常会話だけがコミュニケーションではなく、非言語的コミュニケーション、相手の意見を聞き入れるなど、社会人として質の高いコミュニケーション・スキルの重要性を再認識することができた。生徒は、学校で学んだことが、社会人になってからも行動できることが実感でき、高校生活の中で学ぶことの重要性を理解させることができた。

2 教育現場の適切なICT化について

群馬県教育DX推進センター運営事業に携わる中で、小・中学校のICTを活用した授業を多く参観する機会を通して、現状を知ることができた。異校種である小・中学校の授業参観や先生方との触れ合いが、とても新鮮であり参考になった。その中で、ICTを活用した学習の新たな課題と、解決するための糸口を考えることができた。今後、授業で解決方法を模索しながら、他の先生方へ学んだことを伝えていきたい。

3 キャリア教育実践

事後アンケートにおいては、コミュニケーションの重要性と非言語的コミュニケーションの重要性を理解することができたという回答が多くあったことから、授業のねらいや意図を生徒へ伝え、生徒が理解し思考することができた授業であった。また、授業の最後に目標を立て、それを班の中で発表することで、将来を見据えた回答や目標を達成するために何をすべきかなど、今後の生徒の行動に期待をもつことができた。

III まとめ

SEやプログラマなどの技術者の資質・能力は、非常に高い専門性であり、企業はそのプロフェッショナルの集団で成り立っていることを理解した。高校生が学習している情報系の科目における基礎・基本を身に付けることは、非常に大切なことである。また、営業支援を通して、質の高いコミュニケーション・スキルの重要性を再認識することができた。

今後は、学校現場でのキャリア教育や、適切なICT化の推進、ネットワークやサーバ構築のスキルなど多くの場面で生かしていきたい。また、生徒だけでなく、教員や群馬県の教育発展にも、微力ながら尽力し貢献していきたい。

(担当指導主事 高橋 邦明)